

@onaishigeo



道連れに選んだ訳を教えてください

watasuha anataya nai

@onaishigeo

みにくいアヒルの子はいいよね。

白鳥だったんだもの、アヒルの子じゃないんだから。

でも、もし本当にアヒルの子だったらどうしたのかな。

ねえ、母親アヒルはどうしたのかな？

わかってるよ。

あなたが不機嫌なのはわたしのせい。

あの人の給料が下がったのもわたしのせい。

学校がつまらないのもわたしのせい。

世の中にイヤなやつが多いのも、きっとわたしのせい。

わたしは悪いことを引き寄せてしまうんだ。

私がいなくなれば世の中はよくなるのだろうか？

でも、あなたたちのためになることなんて、する気はないよ。

たとえば、ある日の晩ご飯。

「誰に似たんだろうねー」

あなたはこれ見よがしにため息をつく。

わたしが何を言ったか何をしたか覚えてない。

とにかくあなたはため息をついた。

そのときあの人は、マネキンのような不自然な姿勢でずっとTVを見つめていたと思う。

そういうとき、わたしは何て答えればいいのか。

（あんた達が作ったんなら、あんた達に似てるんでしょ、
ちがうの？）

そう言ってみたいけど言えるわけがない。

捨て子とか孤児が羨ましいなんて...不謹慎だよ。

たとえば、言う必要のないことをわざわざ口にする。

分かってるのに念押しする。

「早く帰ってきてね」

遅く帰ろうなんて誰も思っていない。

だいいち、十分でも門限破ったら死ぬほど怒るくせに。

「ちゃんと勉強してよね」

これでもわたし、いつも平均点以上は取ってるよ。

まあまあちゃんとやってると思うんだけど。

でも、それじゃあ足りないってこと？

ごめんね天才に生まれなくて。

たとえば、「少しは家のこと手伝って」って言うから洗濯物を畳めば畳み方が違うとやり直される。

「女の子なんだから料理くらい覚えて」って言うから作りはじめれば手際が悪いからと横取りされる。

「本当に役立たずなんだから」

でもわたし知ってるよ。

本当はうれしいんですよ？

わたしがいるからあなたの価値が高まる。

いいよね、好き勝手に利用できる子どもがいてさ。

たとえば、「たまには自分で起きたら？」って言う。
でも本当は「あなたは一人で起きられないとってもダメな子」って思ってるんだよね。
わかるんだ、わたし。

たとえば、一緒に買い物行くと「こっちのスカートののが似合うよ」って言う。
でも本心は、わたしが選んだデザインとか色が嫌いなんでしょ？
だったら全部自分で買ってきてわたしに着せればいいじゃん。
赤ん坊だったころみたいに。

たとえば、あの人一人で出掛けると「たまにはママも休みたい」と言う。
でも本音は「私の苦勞にもっと感謝しなさい」って言いたいんでしょ？
なんでわたしに言うの？
あの人に言えばいいじゃない。

たとえば、「嫌なら嫌って言っていいのよ」って言う。
物わかりのいい振りして、本当に拒んだら絶対に許さないくせして。

たとえば、怒ると「そんなにイヤなら出て行けばいいでしょ！」って言う。
出て行きたいよ、わたしだって。
あんたの支配がおよばないところだったらどこでもいい。
もう、わたしをここはら引き離してくれるなら、犯罪者でも変質者でもかまわない。
本当について行くかもしれない。
ねえ、わかる？
娘がこんなこと考えてるなんて想像したことある？

ゼロ

ある日、図書館で「14歳からの心理学」という本を見つけた。
面白いくらいに母親の本音が解き明かされていた。
少しだけ同情した。
そしてほんの少しだけ心が軽くなった。

わたしは自立できるまで、上手にあんたたちの保護を受けよう。
そして一度飛び立ったら、もう二度とあんたたちのもとには戻らない。
鳥や動物たちと同じ。
私もそうするよ。
わかってる？
親鳥は黙って見送るんだからね、
雛鳥の巣立ちを邪魔する親鳥なんていないんだからね。

そしてわたしたちは、晴れて赤の他人になる。
何かいいこと待ってるかな。
それが知りたいから、とりあえずそれまで生きてみようと思う。

※「14歳からの心理学」は架空の書籍です。

道連れに選んだ訳を教えて

<http://p.booklog.jp/book/37296>

著者 : onaishigeo

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/onai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/37296>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/37296>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.